

香川県の農家が徳島県から農耕用の牛を借り受けていた慣習「借耕牛」を調査研究している高松市のデザイナー・富田紀久子さん(77)が、今年出版した著書「あわ／さぬき 借耕牛探訪記」を三豊市や観音寺市に寄贈した。両市では軌を一にして、借耕牛を題材にした長編映画のロケが行われていた。富田さんは著書や映画を通じて、江戸中期から1970年ごろまで約250年間続いた借耕牛の歴史を幅広い世代に広めたいと願っている。

富田さんは30年前に借耕牛のことを知って興味を持ち、牛が往還した讃岐山脈の峠を訪ね、関係者に話を聞くなどしてその歴史を絵巻物や紙芝居にしてきた。「探訪記」は調査研究の集大成として発刊。販売するとともに、「借耕牛のことを知りたかった」と思ったときにすぐに手に取れるように」と香川、徳島両県の自治体に順次、寄贈を進めている。

## 「借耕牛の歴史広めたい」高松の富田さん

三豊や観音寺に  
自著80冊を寄贈



### 学校への書籍 贈呈式

三豊市に著書「あわ／さぬき 借耕牛探訪記」を寄贈した富田さん(右)＝同市役所

三豊、観音寺両市には4月から5月にかけて各40冊を贈呈。両市教委は市内の小中学校や図書館に備え、閲覧用にしている。

富田さんは出版後、「特に徳島の人たちの熱量がすごい」と反響の大きさに驚いており、徳島県的美馬市に17冊、三好市と東みよし町に各15冊を寄贈した。かねてから念願していた借耕牛を題材にした映画化も今年、三好市出身の映画監督薦哲一朗さん(37)＝東京都在住＝の手で実現することになり、喜んでる。薦さんからも製作に当たって問い合わせがあったという。

「絵巻物として描いた物語カリコと少女」には、どんな困難があっても乗り越えていくという現代に対するエールが込められている」と語り、「子どもと教師、学生や研究者にぜひ読んで、借耕牛の全貌を知ってほしい。高齢者にも昔のことを思い返してもらえれば」と呼びかけている。